

## 諫早湾干潟締め切り1年後の鳥類の状況

	諫早 1997年 4月1日	1998年 4月3日	1998年 4月7日	鹿島 1997年 4月8日	1998年 4月5日	東与賀 1997年 4月8日	1998年 4月5日
コチドリ	2		2				
シロチドリ	15	8		2	3	8	38
メダイチドリ	105			2		5	28
ムナグロ	2	3		1			
ダイゼン	1525		10	4	3	212	453
キョウジョシギ	16						
トウネン	8						
ウズラシギ	2						
ハマシギ	4980		3	280	150	3865	6850
サルハマシギ	6						
オバシギ	45					11	
アカアシシギ	2					1	
アオアシシギ				3		2	6
キアシシギ	56						
イソシギ						1	
ソリハマシギ	85					2	
オダロシギ						12	
オオソリハマシギ	45					3	7
ダイシャクシギ	317	2				1	29
ホウロクシギ	55				2	27	180
チュウシャクシギ	234					22	34
種数	18	3	3	6	4	14	9
個体数合計	7500	13	15	292	158	4172	7625

- 諫早湾干潟は、生態系の大崩壊と言ってよいほど激減している。
- また種が一定しておらず、個体が長くとどまれない可能性を示唆している。  
これは越冬期と同様で、冬期には一日の内でもかなりの種・数の変動があったことが観察されている。
- 東与賀町の干潟(大授揚干潟)は数が増え、種数は減っている。  
これは越冬期と同様な傾向である。
- シギ・チドリ類は東南アジア・オーストラリア・ニュージーランド(一部南日本)で越冬し、ユーラシア大陸北部で繁殖する渡り鳥。  
春と秋に日本の干潟に立ち寄り、カニやゴカイ等を食べてエネルギーを補給する。

(財)日本野鳥の会 保護・調査センター

Conservation & Monitoring Division, Wild Bird Society of Japan

Copyright 1998. Conservation & Monitoring Division, WBSJ.

データ無断転載不可

Copyright1998 Wild Bird Society of Japan. No reproduction or republication  
without written permission.

Last update: May. 12, 1998. by Masatoshi Koita.